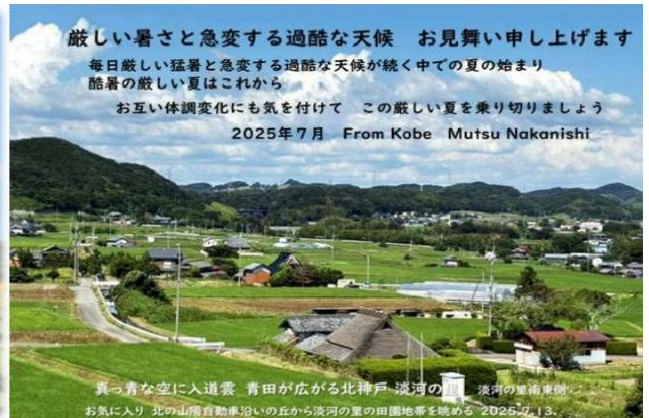


ひまわりの夏2025 7・8月の神戸便り 2025.8.3. Mutsu Nakanishi

神戸に夏到来の便り From Kobe 2025 夏到来

更新が5月からこの7月まで途絶えてしまい、まだ不完全ですが、やっと更新

思うようには中々更新できませんが、半分は自分の「記憶メモ & 頭の体操」とお許しください。



天候急変・局所豪雨そして厳しい暑さと異常気象が続く中で 厳しい暑さと急変する過酷な天候 酷暑 お見舞い申し上げます

酷暑の厳しい夏はこれから お互い体調変化にも気を付けて この厳しい夏を乗り切りましょう

私の方は、80歳を超えて老化と向き合う毎日ですが、頭は回らず、失敗ばかりですが、夫婦共に元気の有難さ つくづく。まだまだ好奇心旺盛 足も動くので、相変わらずの風来坊 元気にしています。

今回の神戸便りもバラバラですが、行動半径が狭くなった今をHP掲載をベースに便りにしています

◎「ひまわりの夏」と「朝顔の清々しさ」のPhoto お届けします。

古代たたら郷 佐用東徳久の里 千種川の河岸段丘に広がるひまわり畑 2025.7.28.

真っ青な青空 一斉に太陽に顔を向け、里全体を黄色にして咲くひまわり

厳しい暑さを飛ばし パツと明るくしてくれるひまわり 1年ぶりのうれしい出会いに。

一つ一つに個性あり おもわず「よお!!」と問いかける ひまわりの夏2025

また、早朝 朝顔に顔を寄せ、ふっと息を吹きかけると パツと花びらをひらく大輪の朝顔

鮮やかな朝顔の筒の中をそっと覗き込み清々しい朝を楽しむ もう何年も続く我が家の夏の朝

◎ もう半年が過ぎましたが、世相は混沌。過度な情報が飛び交うインターネット社会のほころびがここかしこ。

地球環境がますます激甚化し、戦禍は収まらず混沌とともに、厳しい物価高と気候の激甚化が広がる世界、日本もまた、物価高と米騒動に訳のわからぬ事が次々と。

トランプ関税に引きずりまわされ、我が身にも襲い掛かる厳しい時代に突入。高齢化した仲間政治の継続に日本の行く末がますます見えず、嫌気が増す中、ふと気づけば、はや7月。

兵庫県政が混乱する中での、参議院選挙戦。もう目を白黒 これが選挙か?との思いも。

救いは、現状の選挙に飽き飽きした若者たちが政治に新風を吹き込んだこと。

年寄の戯言ですが、世界は・・・そして日本の先行きが気にかかります。

自分にとっては「日本が成長する 一番良い時代をすごした」との思いがふつつと。

今はもう自分たちの時代ではないと思いつつも、つついふつつと。

厳しい酷暑が続く夏ですが、

真っ青な空にもくもくと湧く入道雲にもエネルギーを貰い

“God be with You!!”、“今日一日 Nice Day!!”

今日も酷暑の一日でしたが、

互いに無理せずゆっくりと

今を元気にこの夏を乗り越えましょう。

神戸からGod Be with You!! と唱えつつ

2025.8.3. From Kobe Mutsu Nakanishi





ひまわりの夏2025

7・8月の神戸便り 2025.8.3.

神戸に夏到来の便り From Kobe 2025 夏到来 もうスピードで季節が移り行く中で
2ヶ月ぶりのHP更新掲載を振り返りつつ

◎ ひまわりの夏 2025. From Kobe 神戸 夏の風物詩

■千種川が流れ下る河岸段丘一杯に広がる古代たたら郷

佐用 東徳久のひまわり畑 walk 2025.7.28

■我が家の朝顔帳2025 夏の朝を清々しくしてくれる朝顔 夏の早朝の楽しみ 2025.7.3.-

1. 神戸新聞朝刊コラム「正平調」に見る6・7月の世相

物価高・トランプ関税そして、厳しい暑さと激化する気象が局所豪雨
行き先が見えぬ中で疲弊混迷する日本 その中での参議院選挙

2. From Kobe 7月 参議院選挙の中で インターネット収集資料より

日銀にため込まれた膨大な負債の山 財源がないのに「消費税率減税」・「給付金」の選挙公約
先を語らぬ政治 日本の行く先を担う産・学投資が進まぬ日本 どうすればよいのか・

3. 【私の6・7月の風来坊 行動記録より】(タイトルのみ：HPに動画を含め、詳細報告を掲載しています)

◎神戸の春の掉尾を飾る離宮公園春のバラ 2025.5.28.

◎兵庫県にもこんな素晴らしいブナの森がある 氷ノ山東尾根 大段ヶ平 2025.5.29.

養父市 新緑の氷ノ山 山腹をめぐる氷ノ山林道 自然観察会に参加

◎6月 近郊の田園地帯では田んぼに水が張られ、田植えも始まり、今でないとの美しい里景色

水が張られた田が陽光に光り輝く田園の里景色 北神戸淡河の里ほか 2025.6.3.

6月9日 中国地方と近畿、東海がいずれも平年より3日遅い入り

街や我が家の庭でアジサイの花 梅雨時をさわやかに飾る

6月23日 梅雨明け 空梅雨ですが 小さな線状降水帯が発生して局所的短時間豪雨多発

◎ 7月 真っ青な空に入道雲 青田が広がる里の夏景色 原チャリで北神戸を駆ける 2025.7.13.

◎ 7月 神戸の空に入道雲 夏到来 近畿の梅雨明け

4. 生野峠北 南但馬朝来 標高314m虎臥山(古城山) 山上 天空の城 2025.6.20

山上から眺める青田の里景色を見たくて日本一の山城 国史跡「竹田城跡」ミニハイク

5. 文珍さんの落語的見聞録7月 神戸新聞朝刊5月15日&6月19日より整理転記

<1>5月19日「万博、能勢電... 連想脈々と」 <2>6月19日「ウソを重ねて失せものに」

6. 7月末HP更新 HP掲載記事

和鉄の道: 2件 風来坊: 6件 From Kobe 季節の便り: 6&7月

*** 資料添付 From Kobe まとめのベース資料を2025年6・7月の記録として添付 *****

添付1. From Kobe 2025年6月の神戸便り 2025年梅雨時の神戸 2025.6.17.

添付2. 神戸新聞朝刊コラム「正平調」に見る6・7月の世相

物価高・トランプ関税そして、厳しい暑さと激化する気象が局所豪雨
行き先が見えぬ中で疲弊混迷する日本 その中での参議院選挙

添付3. From Kobe 7月 参議院選挙の中で インターネット収集資料より

日銀にため込まれた膨大な負債の山 財源がないのに「消費税率減税」・「給付金」の選挙公約
先を語らぬ政治 日本の行く先を担う産・学投資が進まぬ日本 どうすればよいのか・

添付4. 文珍さんの落語的見聞録7月 神戸新聞朝刊5月15日&6月19日より整理転記

<1>5月19日「万博、能勢電... 連想脈々と」 <2>6月19日「ウソを重ねて失せものに」

■ 和鉄の道HP 6・7月 掲載記事リスト: <https://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/monthlyindex.htm#LIST>

いつも勝手な私の風来坊録に付き合っていただき、ありがとうございます

厳しい夏ですが、体調管理に留意して、お互い建機にこの夏を乗り越えましょう

仲間の元気が みんなの元気 応援歌 また、お便りなど連絡ください 2025.8.3. Mutsu Nakanishi

日銀にため込まれた膨大な負債の山 財源がない・7つつ・7費税減税」「給付金」、先を語らぬ政治
刹那にかまけて、日本の行く先を担う産・学投資が進まぬ日本 どうすればよいのか・・・

HP 掲載本文を切り抜き、文字小さくて申し訳ありません。また、インターネット収集本文省略しています。
右記に掲載本文:<https://infokkna2.com/ironroad2/2025htm/2025mutsu/fkobeR0707A.pdf>

千種川が流れ下る河岸段丘一杯に広がる古代たたら郷 佐用 東徳久のひまわり畑 walk 2025.7.28



厳しい暑さですが、太陽に顔を向け 林立するひまわりたち 今年もうれしい出会いに



古代たたら郷 西播磨 千種川が流れ下る河岸段丘一杯に広がる佐用 東徳久のひまわり



真っ青な空に入道雲 本年初めて見る澄み渡る青空 山麓バイパスで 2025.7.10.
気温は35℃の猛暑ですが、何となく清々しい夏の訪れ 暑さに負けず頑張らねば

2025 朝顔帳【1】 真っ青な空に入道雲 朝顔が咲きだし今日も一日 Nice Day!!

透明感一杯の清々しさに 思わず花卉の中をのぞきこむ 2025.7.3. 朝顔開花

2025年夏の朝顔帳【1】 2025.7.3. - 7.11.

透明感一杯の清々しさに
思わず 花卉の中をのぞきたくなる

新緑・入梅から 真っ青な空に入道雲
街も里も山も緑輝く初夏へ
夏の朝を清々しくしてくれる朝顔も咲きだしました

過酷な暑さの厳しい夏の朝を清々しくしてくれる朝顔
朝顔に顔を寄せ ふう～と息を吹きかける
毎夏の楽しみ 本年の朝顔帳の第一報です

天候急変・局所豪雨そして厳しい暑さと異常気象が続く中で
早々と梅雨が明けて、夏の訪れ
厳しい暑さと急変する過酷な天候 お見舞い申し上げます
毎日厳しい猛暑と急変する過酷な天候が続く中でのお夏の始まり
酷暑の厳しい夏はこれから
お互い体調変化にも気を付けて この厳しい夏を乗り切りましょう

2025.7月11日
From Kobe Mutsu Nakanishi

夏の朝を清々しくしてくれる朝顔 2025年朝顔帳【1】 2025.7.3. - 7.11.



万博藤薺
7月3日 京朝顔の初咲き
今朝 朝顔が咲き始めました
夏の朝を清々しくしてくれる朝顔
2025年朝顔帳の始まりです



顔を寄せ合って咲いた「雪の円山」・「万博藤薔」・「薄化粧」
玄關に持ち込んで 2025.7.10

白狐のような子猫かい花ひら
「雪の円山」
今年は出会えぬと聞いたの
うれしい出合いに
今日も一日 Nice day!!
2025.7.10 孝親

早朝、庭に出て、咲き残した朝顔を探す。
葉の陰に隠れている朝顔、花が開ききらぬ
葉を少し掻き、顔を出しつ、おちこち息を
づくと目覚め、花びらを指一杯添けてくれた
母親の楽しみな朝顔との会話
今日は、一株、かなひもつ白な「雪の岡山
4」の芽を咲かせて収穫し、
うれしに2025年の朝顔賑つくりです
2025.7.10、早朝

2025 朝顔帳【1】 真っ青な空に入道雲 朝顔が咲きだし、今日も一日 Nice Day!!

[illegible]

和鉄の道2025 7月 鉄の話題

7月 夏到来 神戸からの便り 真っ青な空に入道雲 夏到来 過酷な夏の訪れを元気に

鷗谷山展望台から望む西宮市北西部の山並み。左、鷗谷山。右、榎ノ尾山
その間に高取山が顔を出し、右端には薄く神戸の街がぼんやりと 天橋は隠れ 2025.7.8. 午:35

2025.6.12、梅雨晴雲りの須磨溪・明石海峡遠望
鳥居清成の詩を詠う
あつたけのふもとの
さきぞかしや
瀬戸の海かな
さかすみの
まにまに
月も照り
風も吹く
なほなり
てふ
さきぞかしや
瀬戸の海かな
さかすみの
まにまに
月も照り
風も吹く
なほなり
てふ

2025.6.18、梅雨晴雲りの須磨溪・明石海峡遠望
春には明石大橋の後ろに見えていた今日魚は今日も見えず

7月8日 西六甲旗振り山から眺める左: 北東側 右: 大阪湾・神戸の街

1. 日本製鉄のUS Steel 買収決着 2025.6.19.

何とか買収が成立してほっと一息。
でも日本の鉄鋼については苦難の道がつつくと。
これから鉄鋼マンたちにエールを送り続けねばと



日本製鉄の橋本英二会長兼最高経営責任者（CEO）

2. 【鉄の話題 隕鉄鉄器の復元】宇宙の賜物・隕鉄を素材とする、原始鍛冶の復活へ― 【3】

隕鉄の音を聞く、宇宙の音を聞く — 火箸風鈴、明珍家の挑戦 もう間もなく隕鉄で作られた風鈴の音を聞ける

明珍刀匠による鍛冶の結果、隅鉄は1cm 角の 46cm 長の角棒に変身

隕鉄素材で作られたツタンカーメンの墓から出土した素晴らしい鉄剣をご存じでしょうか。

現代に通じる高温鍛冶技術が形成される前の時代に 隕鉄を素材として、美しい鉄剣が作られている。

しかも、硬くて不純物も多い隕鉄を素材として、今も錆のない美しい鉄剣の表面にはウィドマンシュテッテン構と呼ばれる特徴的な結晶化構造模様がみられる謎多き素晴らしい鉄剣。

この文様は 原始惑星のマントル内で数百万年かけて冷却されることで形成され、地球上では再現できぬ構造という。こんな美しい剣が作られた原始鍛冶技術の探求と復元を目的としたクラウドファンディングプロジェクトが愛媛大学村上恭通教授をリーダーとして進められている。

「ヒッタイト以前にさかのぼる人工鉄の起源」や「人工鉄のユーラシア大陸東遷の道」の国際プロジェクトリーダーとして、これらを解き明かされた権威でもあり、私にとってはこれらの公開報告会をずっと聴講させていた先生が立ち上げたプロジェクトで興味津々で眺めています。

いよいよ、原始鍛冶技術の解明と復元をめざして、隕鉄素材を使って高温鍛造技術を全く使わずに当時の低温鍛造等の技術を模索しつつ、この道の研究者・技術者の手で、実際に選別加工から最終目標である明珍火箸風鈴製作をスタート。隕鉄素材を棒状加工素材にまで、加工工程が進行し、愈々最終目標である明珍火箸風鈴に仕上げる加工に入るとの報告。

姫路の特産として有名な明珍火箸 そしてその鉄火箸が奏でる美しい音が風鈴としても用いられている。

いよいよ最終過去に入るプロジェクト。

どんな隕鉄製の明珍火箸風鈴が仕上がり、どんな音色を奏でるのだろうか？

また、加工された隕石の表面にウィドマンシュテッテン模様がどんな風に表われるのだろうか？と期待杯。

名前は知っていても実物を見たことがない。待ち遠しい製品完成です。

なお、このプロジェクトとは別に 私には姫路の明珍火箸について 懐かしい思い出があります。

大学で鉄鋼材料金属組織学を学ぶ端緒になった頃 私の恩師 田村今男先生が講義で取り出して聞かしていただいた「鉄の音色」それが明珍火箸でした。今もしっかり耳に残っている「鉄の音色」。

隕鉄製の風鈴の製作が完了でき、奏でる鉄の音色 楽しみにしています。

3. 大阪 中の島・淀屋橋の今 2025. 7. 31.

肥後橋フェスティバル ホールで石田組の演奏会へ

「淀屋橋の中の島公会堂で久しぶりにランチして、フェスティバルホールへ向かいたい」という。

私にとっても久しぶりの淀屋橋界隈 中の島公会堂 そして かつて仕事をした住友ビル。

長いこと眺めていない住友ビルがどうなっているのか・・・と。

住友ビル界隈にはまだ、昔のなごりがいろいろ。なつかしく 住友ビルの中を通り抜けて、フェスティバルホールのある肥後橋へ ヴァイオリン奏者石田尚泰さん率いる「石田組」には門外漢の私 石田さんの繊細でやわらかいヴァイオリンの音色に出会って、私のスライド動画のBGMにしたばかり。今回初めて生の演奏会。うれしいソフトな音色のヴァイオリンに聞きほれました。

【参考】NHK ClassicTV「からたちの花」
石田尚泰さんの奏でる美しいバイオリンの音色

大阪 淀屋橋 中の島公会堂界隈



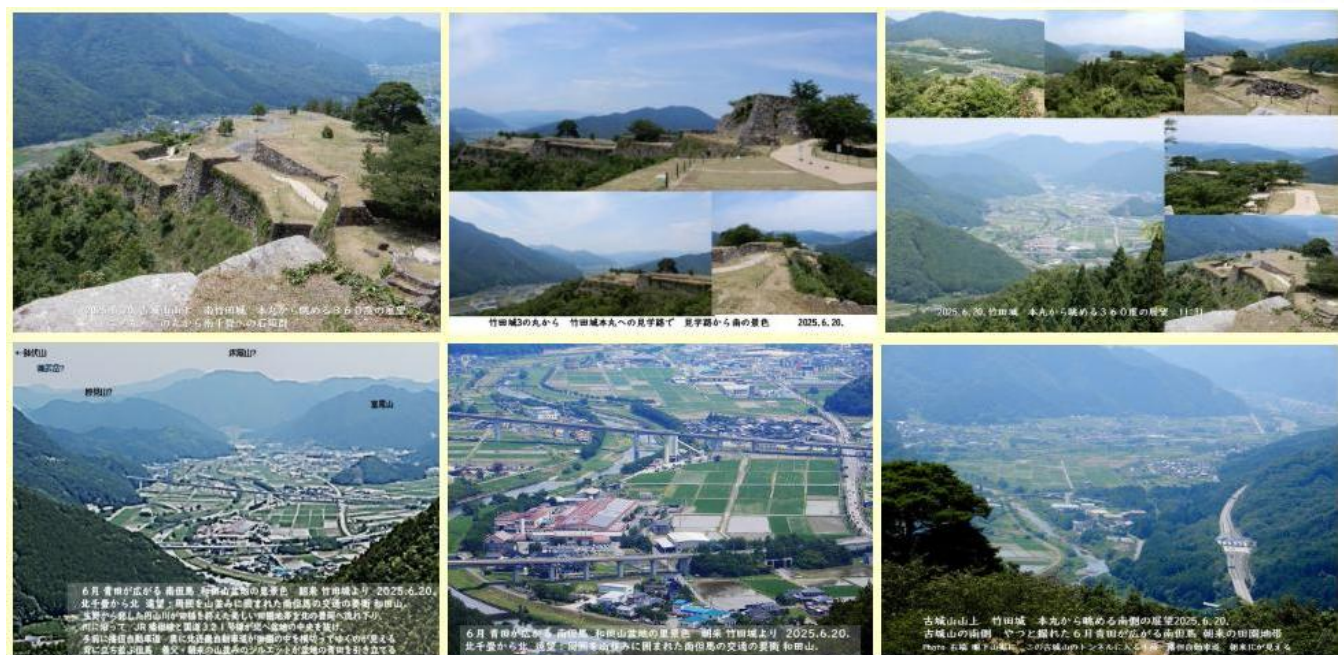
住友ビル界隈



生野峠北 南但馬 朝来 標高 314m 虎臥山(古城山) 山上 天空の城

日本一の山城 国史跡「竹田城跡」ミニハイク

2025.6.20.



生野峠北 南但馬朝来 標高 314m 虎臥山 山上 日本一の山城 石垣を連ねる 国史跡「竹田城城郭跡」
かつて原チャリで駆けまわった但馬。久し振りに生野峠を越えた北但馬朝来 播但自動車道 朝来 IC を出て国道
312号を北へ 竹田の街が近づくと道路左手前方に虎が臥しているように見える虎臥山(古城山)が見える。

その山上に 日本一の山城と言われる幾つもの石垣を連ねる竹田城址がくっきりと。

生野銀山・1円電車の神子畑明延鉱山・多々良木ダム・竹田の城も有名に なったし、大陸と大和王権を結ぶ
和鉄の道の中継点和田山の古墳群は数多くの鉄製品が副葬された但馬の王墓。それに神戸牛の故地。

久しぶりの南但馬 行きたいところは色々あるのですが、今回は竹田城址と反対側 東の与付土の里で合宿中の孫の
迎えまで間時間で、家内と別行動で、久しぶりに竹田駅から山上の竹田城址へ登山道を登る算段。

「天空に浮かぶ城」と有名になって、全国から観光客が訪れ、山上城跡見学の道もよく整備され、登りやすくなった。

今回のお目当ては「新緑に覆われた山を登り、竹田城跡の石垣群を見学、そして、中国山地の山々を背にして、
眼下に広がる山郷の田園・今でなければ見られぬ青田のパッチワーク・山郷の里景色の遠望」に出会いたいと。

竹田駅から山上の竹田城址へ直登ルートで登れば、往復2時間ちょっと。うれしい山上散策に。

暑さには閉口しましたが、観光客のいない平日 緑一杯の静かな城下に山上の城址も独り占め。

ゆったりと竹田城址を巡りつつ、眼下に広がる但馬の里景色 晴れた山上には清々しい6月の風も

うれしい竹田城ミニハイクができて、Photo Album とスライド動画にして楽しんでいます。

もうよくご存じの方も多いと思いますが、目に留まる山郷の6月の里景色があればと――。

6月 暑さには閉口しましたが、うまい空気を胸一杯

2025.6.20. 今日も一日 Nice Day!! 竹田の城下において、お城を眺めつつ

<1> 5月19日 「万博、能勢電…連想脈々と」

文
化

2025年(令和7年)
6月19日
木曜日

神戸新聞社
〒210-8585 神戸市中央区東川崎町1-1-1
電話 078-362-7056
FAX 078-362-7057
Eメール ksh@ksh.co.jp

神戸新聞

落語的見聞録



桂文珍

ウソを重ねて失せ者に…

米の値段が高い。そこで小泉進次郎農相は古米の値段まで管理するのかもしれない。古古古古米まで備蓄米を放出したら少し値段が下がったとか。当たり前だ。進次郎の米ならシンマイになるのかい？このままだと古代米まで出すのかい？と思うような日々だ。

日本の農業政策の後手後手ぶり、長い間の減反政策、農業従事者の高齢化、米をつくるのに高い肥料代、苗代、多額の耕作機械代。公務員をしていた私の友人は、年金を田んぼに入れて赤字だ、とボヤクことしきり。その友人が唯一、私に言ってくれたギャグは「私は今まで一度も米を買ったことがない」。まるで更迭された大臣のよう。当たり前や、君とこ米農家やないかと一応、ツッコミを入れておいた。

先日某新聞の見出しにあった。一瞬、え？アメリカ

が関税のみならず、日本の米の値段まで管理するのかもしれない。よく読むと、USスチールの日本製鉄による買収交渉にて米國が黄金株なるもので買収後もしっかりと管理をするといったニュースの記事の見出しだった。

見出しのみならず、記事の中身をしっかりと読まねばの時代、情報過多の時代、偽情報に惑わされないよう、まして、近々、選挙の季節、SNSなんぞでそれが本当でそれが偽情報なのか、しっかりと見ないとエライことになる。

落語「御神酒・徳利」ではある日、京の公家さんから頂いた一対の銀の徳利の片方が行方不明に。実は出入りの職人熊五郎が過って水瓶の中に落としたが、酔っついていて、そのことを忘れていた。家に戻り、旦那が徳利が無いと探していたことを女房に語るうちに思い出し、早く謝った方がいいと旦那のところへ戻った。

素直に謝ろうと思ったのに、実は占いで徳利のある場所がわかるとウソをつく。側にあった算盤で占うのだとハチバチ。これは西の方角、なぜ？二十四と出た、水瓶の中を三十六、見ろ！と出た。探すと、水瓶の中に徳利があった。

熊五郎は占いの名人ということになり、次々とその場限りのウソをついて、遠く尾道まで。その宿では二十両の金財布が失せものになったと大騒動。盗んだ宿の女中が病気の親のために取ったと熊五郎に自白、それをさも占いで見つけたようにウソをつく。ウソにウソを重ねて最後は自分が失せ者になるといふ、面白い斬だ。

ウソ、偽情報に御用心御用。

（かつら・ぶんちん＝落語家）

次回回は7月17日

文珍さんが取り上げた話題はスタートしたみやくみやく人気の大阪万博。

タイトルには「万博、能勢電…連想脈々と」とある。よく知る能勢電鉄と万博とどうつながるのだろうか???

活字には「西行」の文字も見える。「西行」という落語も全く知らず。さっそく読んで納得。

私にも遠い記憶しっかりと見なかった千里万博の思い出がある。もっとちゃんと見とけばよかったと今も思う。

でも 年老いての今回はもういいと。

勢電の駅名はどれもよく知る名前 特に鼓ヶ滝駅はかつて縄文の集まりでよく通った川西の生涯文化センターの最寄り駅。

また能勢電界隈には今もたくさん仲間がいる。

懐かしい思い ちょっぴり後ろめたい私の万博への思いを晴れ晴れと。

From Kobe Mutsu Nakanishi

<2> 6月19日 「ウソを重ねて失せものに」

文
化

2025年(令和7年)
6月19日
木曜日
神戸新聞社
神戸市中央区東川崎町1-1-1
電話 078-362-7056
FAX 078-362-7055

神戸新聞

落語的見聞録

桂文珍



ウソを重ねて失せ者に…

米の値段が高い。そこで小泉進次郎農相は古米のみならず、古古古米まで備蓄米を放出したら少し値段が下がったとか。当たり前だ。進次郎の米ならシンマイになるのかい？このままだと古代米まで出すのかい？と思うような日々だ。

日本の農業政策の後手後手ぶり、長い間の減反政策、農業従事者の高齢化、米をつくるのに高い肥料代、苗代、多額の耕作機械代、公務員をしていた私の友人は、年金を田んぼに入れて赤字だ、とボヤクことしきり。その友人が唯一、私に言ってくれたギャグは「私は今まで一度も米を買ったことがない」。まるで更迭された大臣のよう。当たり前や、君とこ米農家やないかと一応、ツツコミを入れておいた。

先日某新聞の見出しにあった。一瞬、え？アメリカ

が関税のみならず、日本の米の値段まで管理するのか？と。よく読むと、USスチールの日本製鉄による買収交渉にて米国が黄金株なるもので買収後もしっかり管理をするといったニュースの記事の見出しだった。

見出しのみならず、記事の中身をしっかりと読まねばの時代、情報過多の時代、偽情報に惑わされないよう、まして、近々、選挙の季節、SNSなんぞでそれが本当でそれが偽情報なのか、しっかりと見ないとエライことになる。

落語「御神酒徳利」ではある日、京の公家さんから頂いた一対の銀の徳利の片方が行方不明に。実は出入りの職人熊五郎が過って水瓶の中に落としたが、酔っていて、そのことを忘れていた。家に戻り、旦那が徳利が無いと探していたことを女房に語るうちに思いついた。早く謝った方がいいと旦那のところへ戻った。

素直に謝ろうと思ったのに、実は古い徳利のある場所がわかったとウソをつく。側にあった算盤で占うのだとバチバチ。これは西の方角、なぜ？二十四と出た、水瓶の中を三十六、見ろ！と出た。探すと、水瓶の中に徳利があった。

熊五郎は古い名人ということになり、次々とその場限りのウソをついて、遠く尾道まで。その宿では二十両の金財布が失せものになったと大騒動。盗んだ宿の女中が病気の親のために取ったと熊五郎に自白、それをさも占いで見つけたようにウソをつく。ウソにウソを重ねて最後は自分が失せ者になるという、面白い話だ。

ウソ、偽情報に御用心御用心。
(かつら・ぶんちん)落語家

次回7月17日

梅雨というのに猛烈な暑さ 街の話題は米の値段の高騰。農林大臣が小泉さんになって、政府の備蓄米放出 古米から古古古米まで放出、安いコメを街に出して、米価を下げる算段が進む。

それに「トランプ関税」の激震 日本製鉄のUS スチール買収に「黄金株登場」等々と新聞見出しが躍る。知っておかねば暮らしが成り立たぬが、何がなんやらわからぬ中、偽情報がそれに輪をかける情報過多の時代。文珍さんが取り上げた落語は有名な「お神酒徳利」。ウソにウソを重ねて最後は自分が失せモノになる。

自分にもあるあるその場しのぎ・苦し紛れのウソ。でも今の世の中 偽情報の氾濫 インフルエンサーとかいって嘘を嘘でおおる過大広告ビジネスも横行。御用心ください。

From Kobe Mutsu Nakanishi

2025年7月HP更新時に記録掲載 2025.7.15.

From Kobe

2025 年 6 月の神戸便り 2025.6.17.



6月梅雨の時節に 北神戸の田に水が入り美しい里景色 2025.6.5.北神戸淡河の里で



須磨離宮公園の花菖蒲 花を咲かし始めました 2025.5.28.

新緑の輝きから青田の里へ 街や庭に咲く紫陽花 今でなければの美しい里景色

しばし 時を忘れてゆったりと 霧雨のきょうも一日 Nice Day!!

God be with You!! From Kobe

梅雨を迎え、異常気象の常態化というか 局所集中豪雨の激甚化や猛烈な暑さ等々厳しい梅雨に。

皆さまの所はいかがでしょう お見舞い申し上げます。

「大阪はすごい雨に」とか「京都は猛暑 たまらん」等々聞こえてくるのですが、幸いながら私の住む神戸須磨ではくるくる変わる天候ですが、雨天はちょっぴり。日に日に暑さがつのる毎日、梅雨空には程遠い。

一方、世相は混とん 物価高騰・米の高騰に政府備蓄米放出。世界は戦禍が収まらぬ中 トランプ関税に右往左往の先が見えぬ厳しい時代。新聞を広げては、ふっと息つく毎日ですが、相変わらずの風来坊。

HP の更新もままならず、6月半ばには更新せねばと思いつつ、ついに7月 top に。

遅ればせながら、私の6月神戸近郊の街歩き・里歩きなど、6月神戸からの季節の便りです。

(追伸; ぐずぐずしている間に まだ7月にもならぬのに近畿をふくめ、西日本では6月22日梅雨明けに)

80代になって 仲間との連絡もなかなか取りづらくなりましたが、一年ぶりの会社仲間の同窓会。

“まだまだ元気やぞ!!” と言いつつも、もう年寄りの仲間入り。

往時を思い出しつつ、楽しい時間を過ごしました。

80代、季節の移り替わるスピードにびっくりしていますが、それだけ自分の動きが遅くなっているのだと。。。。

何か感覚が変わった 80代。

わが身も含め、家族共々思いもかけぬトラブル等々あるのですが、まだまだ、“足も動くし、好奇心旺盛 気力さえあれば 前向いて”と自らを励ます毎日。いつも ありがとうございます。

◎ 6月14日の朝 日本製鉄のUS Steel 買収 トランプ政権と合意ができたとのニュース

ほっと一息でしょうか、ますます厳しい鉄の環境 いやいよ正念場だと。

◎ また、この春 大阪で万博が始まり、連日ニュースで、色々流されていますが、私はどうも……

でも入社当時の千里万博を懐かしく思い浮かべることがあります。

当時はあまり興味なかったが、後の時代節目で万博が話題に。やっぱりちゃんと見とかなあかんかったなあ。と。「孫たちには 是非連れて行って 見学させてや」と言っています。

◎ 兵庫県にもこんなに素晴らしいブナの林が残っているのか!! とびっくり。

5月・6月初旬 野山が芽吹き、日に日に濃くなる新緑の姿が素晴らしく、氷ノ山山腹を巡る氷ノ山林道のブナ自然観察会に参加。 新緑のブナ林の美しさと空気感 感じてもらえればと。

◎ 5月末 春の掉尾を飾るバラ 定点にしている須磨離宮の春のバラ展へ行きました。

一番良い時期からもう遅れたと思いましたが、美しいバラ百花繚乱 また、花菖蒲も咲きだしていました。

◎ 氷ノ山山腹 新緑のブナ林 そして須磨のバラ それに田に水が入った淡河の里景色

新緑から梅雨へ移りゆく神戸近郊の里景色 おいしい空気を胸一杯

◎ 人口減少に転じ、もう一つ元気のない神戸の街活性化の一環として、

三ノ宮駅前と港の大改造が地上・地下・港で進んでいます。そんな神戸の街 三ノ宮駅前の工事の写真

新緑から梅雨を経て初夏へ
 時節毎に歩く田園の里景色 私にはうれしい里歩き
 なにか一つでも心やすめにでもなればと。

まだまだ天候が不安定で、過酷化が進んで、異常気象が
 生活に与える影響が益々厳しくなる昨今
 どうか体調変化にもご留意ください
 今回もまた、まとまりのない便り お許しください。

God be with You!! From Kobe

早々と梅雨が明けて初夏へ From Kobe

2025年6月末 Mutsu Nakanishi



6月梅雨の時節 田に水が入り美しい里景色 2025.6.5. 西神戸伊川谷 小寺の里で
 自宅のすぐ近く西神戸の伊川谷 小寺の里 私の家の米や野菜に果物 季節お折々の食料 は
 ほとんどここで。米は家内が親しくしてする農家さんからずっと調達
 ほかの野菜も親しくなった農家さんたちの週末朝市で この物価高も楽しく乗り切っています

■ 6月初旬 田に水が入り、一年でも一番美しい田園地帯の里景色 2025.6.5. 北神戸淡河の里で



6月梅雨の時節に 北神戸の田に水が入り美しい里景色 2025.6.5.北神戸淡河の里で



■ 遅ればせながら須磨の春の掉尾を飾る須磨離宮 春のバラと梅雨時を清々しく飾る紫陽花の花



紫陽花
 梅雨時を清々しく
 毎日を元気に
 2025.6.15. from Kobe
 自宅の庭の紫陽花



新緑が輝く須磨の春 掉尾を飾る須磨離宮公園 春のバラ 2025.5.28.
 本年は出かけるのが遅れましたが、うれしいバラ百花繚乱 池では菖蒲の花も咲きました

■ 兵庫にもこんなにも素晴らしい深緑のブナ林がある

但馬 氷ノ山山腹を巡る瀬川・氷ノ山林道&氷ノ山 大段ヶ平登山道 2025.5.29.



びっくりしましたが、秋にはまた真っ赤になると聞く また秋にも訪れねばと



厳しい気象を阻む須磨の地形の妙 南には大阪湾と播磨灘に振り分ける淡路島 北の壁 西六甲
梅雨時の須磨にびったし 「蝸牛 角振り分けよ 須磨 明石」





■ 2025.6.1. 春の長田の靴っ子祭り

みんな紙袋に一杯靴入れて 6月と12月 普段使いの靴を購入する うれしい庶民の祭りです

勝手気ままな風来坊 神戸に住んで40年 家族ともども元気に過ごしています。

いつも いつも本当にありがとうございます。

もう猛暑日 厳しい暑さになりますが、

お互い 体調変化に気を付け、今年の夏を乗り切りましょう

■ 人口減少に転じ、もう一つ元気のない神戸の街活性化に向けた三ノ宮駅前と港の大改造 地上・地下・港で 神戸の街のあちこちで進んでいます。私の住む西神戸でも



神戸市の市街地の大改造 三ノ宮駅前の工事の写真

2025.6.14. JR三ノ宮駅南側の工事現場 東側デッキから西をむいて

神戸新聞朝刊コラム「正平調」に見る6・7月の世相

物価高・トランプ関税そして、厳しい暑さと激甚化する気象が局所豪雨

行き先が見えぬ中で混迷日本 7月の参議院選挙 2025年7月 from Kobe



選挙戦が終わった翌朝の新聞より 惨敗に終わった自公 国難の時代に政治は混迷を深める
この選挙戦の勝敗を左右した若者たち!! 政治の行く手を見定めよ……

トランプが我がものの顔で「アメリカファースト」とトランプ
に翻弄される世界

そして、同盟国日本もその渦中 トランプの手の内に。

私には自分さえよければと不遜な自分本位に見える
トランプ「アメリカファースト」。世界、そして日本の先行
きが全く見えぬ中で、次々と国際協調の枠組みが壊さ
れてゆく。自己中心の◎X二者択一を迫る弱者切り捨て
の時代へ 世界が巻き込まれてゆく。

日本製鉄の US Steel 買収の決着がついて、やっと
一息。でもトランプ関税に世界が、そして日本が翻弄さ
れる。それをモデルにするかのような、今までとは全く
異質だった本年7月の参議院選挙

選挙戦とも思えぬ選挙風景が巷で繰り広げられ、

街での街頭演説や選挙ポスター そして選挙カーを取り巻く熱狂的ファン。まるでトランプ体験に酔いた
いともとれる若者たち等々についにぶつつ。

是非はともかく若者たちが巻き起こした新風!! この新しい風が日本の未来を変える原動力になるよう
者たちも責任を果たす行動と意見を異にする人たちにも目を向けてほしいなあ!!

呪文のように唱えてきた、「人類が生き延びてきた道のキーワード:人類だけが有する相手を思う心」
その原点がむべなく壊されてゆく。

神戸新聞正平調氏いわく「命 ばんざい ざいざいざい」とセミが鳴く

さあどうなる 日本の行く先は……

2025.7.25. From Kobe

以下 選挙戦前後の6・7月の神戸新聞コラム「正平調」に掲載されたものより、

私の気に入った「ふむふむ」。思いは人それぞれですが、こんな意見もあると……

追伸: トランプ関税は 15%で合意したという。

日本では「これで一安心」との空気が流れているが先行きは???? 2025.7.23.

厳しい暑さの中で戦われている参議院選挙戦 県政の混乱の中で注目される兵庫の選挙
まるで、イベント会場か…… 選挙ポスターにもこれか候補者?と思わせる政見なき
ポスターに顔をしかめる。受け止めは人それぞれですが、年寄の戯言
真偽を確かめぬスマホ・SNSがまき散らす危うさにめをさせと。



正平調

作家の島田雅彦さんがある対談で語っている。「喜怒哀楽の感情のなかで、なぜか人を最も饒舌にするのが『怒』です」と。本当は怒りたくなかない。それでも感情の内燃機関が点火、爆発し、言葉を吐き出すしかないときがある◆「常識外れ」「信じられない」「言語道断」「ばかにしている」「許したい」。能登半島地震の被災地内外から「怒」の言葉があふれて止まらない。火をつけたのは自民党・鶴保庸介氏の「運」発言である◆参院選の応援演説で「運のいいことに能登で地震があった」と述べた。その後の会見では「私が責任を取ることで皆さんの気持ちが収まるなら」とも口にした。なんとという言い草、確かに人をばかにしている◆能登では約2万人が仮設住宅での不自由な暮らしをいられている。歯を食いしばる被災地に政治家が届けるべきは「喜」や「楽」であって、「怒」や「哀」ではないはずだろう。なんで、そういうことを言う◆うちは災害と無縁です、という場所は日本のどこにもない。だれもがあの被災者になりうる、かなりの想像力があれば「運」ところどころとも言えないはずである◆失言に妄言、また暴言。他者の痛みに寄り添えない政治家を持ったわれら国民の不運を心の底から嘆く。 2025.7.11

参議院選応援演説の中で出た暴言「運のいいことに能登で地震があった」と。最近の世相を見るとまあしゃあないなあときれ返る。

「受け狙い」「自分本位」もう言いつばなし、真偽はお構いなしの言ったもの勝ちのスマホ・SNS 拡散本位。また 確かめもせず受け入れる刹那の世界。

今 日本で起こっている情報過多社会の縮図 最後は自己責任で片が付く。

いやな冷たい社会がひたひたと。ご用心ください 2025.7.12. Mutsu Nakanishi

正平調

日本のセミを「樹に棲むこおろぎ」にたとえ、その鳴き声を称賛したのは明治以来日作家小泉八雲(ラファディオ・ハーン)である。「稀にみる名歌手揃いといわねばならぬ」◆八雲は随筆に書いている。ミンミンゼミは「すてきな音楽家」に、ヒグラシは「小さな鐘が連打されるよう」に、ツクツクボウシは「まさに鳥の歌」に聞こえる。アラゼミの絶叫は耳を震わせるばかりだ、とも◆雨上がりのきのう、セミが鳴くのを聞いた。クマゼミに、アラゼミもいる。短かった梅雨と酷暑のせいで出遅れを心配する声もあったが、いよいよ出番らしい。見上げた樹にはみごとな抜け殻が幾つもあつた◆セミの抜け殻を指す「空弾」は、この世、この世の人、この意味でも用いられる。もとは「現臣」「現人」などから転じた当て字といい、短命を惜しむように鳴くセミのはかなさが人の世に重なったのだろう◆まど・みちおさんに「セミ」という詩があつた。〈土の中から けさでてきて/もう セミがうたえている〉。賛歌のようにつり注ぐ歌声を記していると。いた。〈たいようばんざい ざいざいざい〉◆詩人みたく耳をすませば、戦後80年のせみしぐれがはや聞こえてきそう。いのち ばんざい ざいざいざい。 2025.7.16

「正平調」氏は下記のように記している

- ◆ セミの抜け殻を指す「空弾」は、短命を惜しむように鳴くセミのはかなさが 人の世に重なったのだろう
- ◆ まど・みちおさんに「セミ」という詩があり、賛歌のようにつり注ぐ歌声を記していると。〈土の中から けさでてきて/もう セミがうたえている〉。まどさんはこう書いた。〈たいようばんざい ざいざいざい〉
- ◆ 詩人みたく耳をすませば、いのち ばんざい ざいざいざい。

2025-7-16

参議院選挙もう終盤 「バラマキ選挙」若者たちの「スマホ・SNS拡散選挙」と言われた今回。

良くも悪くも まもなく結果が出る。 「いのち ばんざい ざいざいざい」と新風が吹きますよう

2025.7.16.朝 From Kobe Mutsu Nakanishi

正平調

夏の土用のころ、風もないのうねりを伴った大波が海岸に押し寄せてくることがある。はるか南方の台風に起因するもので、「土用波」という。層上ではちょうど今の時期にあたる◆参院選の開票速報を聞きながら、時候の一句を思い浮かべた。〈土用波一角崩れ総崩れ〉（本井英）。与党の苦戦は選挙の前から伝えられていたが、不信の大波がまさかこれほどとは…という崩れようである◆早々に幕引きを図ろうとした政治とカネの問題か。有効な手を打てずに長引く物価高か。大波の要因はいろいろあるにしても、与党に怒りの逆風が吹いたというよりはむしろ「さじを投げられた」に近いだろう◆「たこが一番高く揚がるのは風に向かっているときである。風に流されているときではない」。元英首相チャーチルの言葉と伝えられる。さじを投げられ、向かい風にも見捨てられたら、たこは落ちるしかない◆暮らしに経済、安保・外交、そして突如として争点に浮上した外国人政策。選挙を通して有権者の目に映ったのは、野党や新興政党に票を奪われまいと目先の風ばかりを追って迷走する首相の姿ではなかったか◆〈土用波夕日の力まだのこる〉（櫻井博道）。落日の政権与党に立て直しの余力ありやなしや。時間はない。 2025.7.21

社説

2025 参院選 2025.7.21

2025.7.21

参院選は20日投票開票され、自民・公明両党の与党が改選議席の過半数を下回るの確実となった。先行きの見えない物価高やトランプ関税への対応、中途半端に終わった政治資金改革などが政権を直撃した。国民民主党や参政党が保守層や無党派層の受け皿となり、議席を大幅に増やした。立憲民主党は伸び悩んだ。

「自公で過半数」という自ら設定した最低限の目標を達成できなかったのは、石破茂首相の責任論が強まるのは必至だ。衆参両院で少数与党となり政権運営はさらに厳しさを増す。政権の枠組みを巡って各党の駆け引きが激化するだろう。目先の「数合わせ」では、国民の信頼は遠ざかるばかりである。山積する国内外の課題にどう対処するか。与野党を問わず重い責任を負うことになる。異なる意見や利害を調整しながら幅広い合意に基づく政策本位の政治を構築せねばならない。

消費税の減税・廃止か、給付金か。暮らしに物価高が影を落とす中、今回の参院選は「負担軽減」の訴えの大合唱となった。

昨秋の衆院選で自民、公明両党は過半数を割り込んだ。石破政権は野党の賛成なしには予算案も法案も通せない不安定な政策運営を余儀なくされてきた。与野党が政策ごとに協議を重ね、一致点を見いだしてきたのは一歩前進だ。ただ野党は個々の公約を実現させる

自公敗北

国民の厳しい審判を直視せよ

手柄合戦に走り、与党も政権維持を優先した印象は否めない。

財政健全化や、人口減少社会での給付と負担の在り方を含む税とを掲げ、排外主義に結びつきかねない規制強化や権利の制約を訴える政党が勢力を増した。

少子高齢化が進む日本では、外国人労働者は経済社会の維持や成長に欠かせない存在だ。政治の無策を棚上げ、物価高や格差拡大などで高まる国民の不満のけ口を外国人へ向けさせて分断や対立をあおる事態を深く憂慮する。

政府は、選挙戦のさなかに外国人関連の施策を取りまとめる新組織の設置を打ち出した。「日本人ファースト」を掲げる参政に自民の岩盤支持層を切り崩される焦りが透けたが、結果的に差別や偏見を助長する懸念が拭えない。同じ社会の一員として外国人が安心して働き、暮らせる環境をつくることとが、政治が果たすべき役割だと肝に銘じる必要がある。

新興勢力の伸長は物価高や賃金、雇用など身近な課題に十分に対応できない既存の政治に、有権者が「不信任」を突きつけた結果とも言える。「政治とカネ」を巡る問題を軽視し、抜本的な改革に取り組みもしない自民党のみならず、主要な既成政党にも厳しい目が向けられた。

そうした中、インターネットの交流サイト（SNS）や動画を戦略的に活用して若年層にアピールする政党が現れ、支持を集めた。こうした流れはより強まるのではない。偽情報の発信や誹謗中傷などSNSの規制強化を巡る議論も必要だが、政党への不信を招いた原因そのものに向き合うことを忘れてはならない。

価値観の多様化もあり、一つの政党が安定多数を維持し続けるのは難しくなると考えられる。

超党派で課題解決を少数と対峙する野党各党も政策の隔たりは大きい。与党が数確保するために議席占有率の小さい政党にすり寄り、場当たり的な対応を繰り返す。それは民意に沿った政策と考えるのか。政党間協議の在り方やルール化も議論するべきだ。

物価上昇を上回る賃上げへの道筋を示し、政治とカネや選択的夫婦別姓制度などの積み残された課題の解決へ、党派を超えて踏み込んだ対応が求められる。

投票率は推計で50%台後半と前回選を上回った。昨秋の衆院選に続き、民意は与野党仲仲による立法府の復権を望んだ。選挙の後、政党や当選者が自託にどう応えようとするのか、点検を続けるのも有権者の役割である。

選挙結果が明確になった7月23日の神戸新聞のコラム「正平調」より

◆あなたにとって町は何をすることで聞かれたら、さて、どう答えよう。

暮らすにせよ、働くにせよ、遊ぶにしても「心地よく息ができるところ」であってほしい。

自分も、隣人もである

「町」を題材にした随筆選集をつくるにあたって、作家の山口瞳さんが編者を任された。文人たちの数ある名文を読みながら、山口さんは人それぞれに町への向き合い方があると気付く◆あどがきに書いている。「植草基一にとっては、町は買物をするところである」。織田作之助にとっては「ものを食べるところ」、開高健にとっては「酒を飲むところ」だと（「日本の名随筆9 町」作品社）◆あなたにとって町は何をするところかと聞かれたら、さて、どう答えよう。あれこれ迷うが、暮らすにせよ、働くにせよ、遊ぶにしても「心地よく息ができるところ」であってほしい。自分も、隣人も、である◆参院選では、日本に暮らす外国人への差別をあおるような、また小ばかにしたような発言が候補から聞かれた。選挙が終わり町は静かになったが、何とも息苦しく、ざらついた空気が今も消えないで残っている◆田辺聖子さんが神戸に暮らしていた頃の思い出を、ある対談で語っていた。近所の公園で外国人の子どもがキャッチボールをしている。転がってきたボールを夫が拾ってあげた。子どもは言った。「おおきに」◆話はただそれだけだが、いい町だなあと思う。気持ちのいい風がすーっとあたりを吹きぬけていくような。 2025.7.23

◆ 参院選では、日本に暮らす外国人への差別をあおるような、また小ばかにしたような発言が候補から聞かれた。

選挙が終わり町は静かになったが、何とも息苦しく、ざらついた空気が今も消えないで残っている

◆ 田辺聖子さんが神戸に暮らしていた頃の思い出を、ある対談で語っていた。

近所の公園で外国人の子どもがキャッチボールをしている。

転がってきたボールを夫が拾ってあげた。子どもは言った。「おおきに」

◆ 話はただそれだけだが、いい町だなあと思う。

気持ちのいい風がすーっとあたりを吹きぬけていくような。

神戸新聞朝刊コラム「正平調」氏が呼びかける 2025.7.23.

ずっと待っていた風が今吹いた まるでやさしい声で 話しかけるように吹いた

I's going to be all right きっと大丈夫

思うようにはいかなくても ----- 小田和正「風を待って」より

何とも言えない穏やかな空気感 こんな日本をとりもどしたい。

日本の若者たちはこんな未来の日本を作り上げてくれるだろうか

新しい風がこんな方向に吹くことを期待して、「ふむふむふむ」と

From Kobe Mutsu Nakanishi

日米 相互関税15%

25%から引き下げ合意
車も15%、コメ輸入促進

鉄・アルミは50%継続

東証1396円高、4万1000円回復

石破首相 来月進退判断
退陣不可避か、自身は否定

神戸新聞
7月24日 木曜日

KANJU

11歳 戦後50年 戦艦から見た神戸

24歳 イカダゴザ平門灯台へ放火騒動

25歳 東京、日本郵船の危機

26歳 江戸、徳川幕府の危機

27歳 江戸、徳川幕府の危機



勝手な年寄の戯言 お許しを
元気にこの厳しい夏を乗り越えねばと
一日一日 積み重ねて
毎日の新聞や web news より

【From Kobe 7月 参議院議員選挙の中で】【インターネット・新聞記事収集:7月より】

日銀にため込まれた膨大な負債の山 財源がないのに「消費税減税」「給付金」、
先を語らぬ政治 日本の行く先を担う産・学投資が進まぬ日本
なにか 肌で感じる感覚と報道・政治との違和感 そんなことを頭に思い浮かべつつ

参議院選挙の中の争点の一つとして 急激な物価対応として、「消費税減税」「給付金」が大きな話題となり、
かつてばらまき政治と批判された政策が大きな話題となるとともに、国民の期待も大きい。
でも、振り返れば、赤字国債を発行する日本の状態で、その財源について、明確に答える政党はなく、行って
みれば、また借金。いずれはまた更にインフレを加速・円安政策に拍車をかける。
でも そのことに誰も触れない日本の現状。

日本独自の大きな収入を持ち込める先端産業育成政策の果実が実らない限り、いずれは破綻の道。
一日も早く、国民も日本の今を知り、官・学・財こそって、取り組まねばならないのに……と。

気になっていたことの記事解説がインターネットにありました。

こんなことも考えないと全体が見えてこないのでは……と。

賛否両論 刹那的な今の政治の中で、目をそらされていることにも目を向けねばと。

インターネットの中で収集した2つの資料 ご参考になれば…… Mutsu Nakanishi

収集参考資料

1. 日本円の「紙くず化」は避けられない… 藤巻 健史(ふじまき・たけし) フジマキ・ジャパン代表取締役
「消費税減税」でも「給付金」でも 参院選の後は増税地獄が待っている
2. 自動車産業を潰すつもりか… 小宮 一慶 小宮コンサルタンツ会長 CEO
トランプ関税交渉で経営コンサルが「これしかない」と話す日本に残された切り札
今はまだ無理だが参院選後なら切れるカードがある

参議院選挙の中の争点の一つ 急激な物価対応として、「消費税減税」「給付金」が大きな政策焦点、
かつてばらまき政治と批判された政策が今大きな話題となるとともに、国民の期待も大きい。
でも、振り返れば、膨大な赤字国債を抱える日本の現状。その財源について、明確に答える政党はなく、
言ってみれば、また借金……。いずれは更なるインフレを加速の円安政策に拍車をかける。
でも マスコミ・政治家は今誰も触れない日本の現状。本当のところはどうなのだろうか……
世界に通用する先端産業育成政策の果実が実らない限り、いずれは破綻の道。
一日も早く、国民も日本の今を知り、官・学・財こそって、取り組まねばならないのに……と。
気になっていたこと 私のブレ勉強の記事解説がインターネットにありましたで、ご参考になれば……。
私の身勝手。賛否両論 刹那的な今の政治の中で、目をそらされていることにも目を向けねばと。
ご参考までにとインターネット記事の書き写し。

巷の感覚と政治の連れ等々 偽情報が政治を左右する時代の中で、分断がひたひたと日本にも……と。

7月 Web 収集 Mutsu Nakanishi

【1】日本円の「紙くず化」は避けられない…

「消費税減税」でも「給付金」でも参院選の後は増税地獄が待っている

PRESIDENT Online 7/16(水) 17:17 配信

<https://news.yahoo.co.jp/articles/1c608eda016f29e64676bc253a1a481266e4f2f3?page=1>

----- 藤巻 健史 フジマキ・ジャパン代表取締役

1950年東京生まれ。一橋大学商学部を卒業後、三井信託銀行に入行。80年に行費留学にてMBAを取得(米ノースウェ
スタン大学大学院・ケロッグスクール)。85年米モルガン銀行入行。当時、東京市場唯一の外銀日本人支店長に就任。

2000年に同行退行後。1999年より2012年まで一橋大学経済学部で、02年より09年まで早稲田大学大学院商学
研究科で非常勤講師。日本金融学会所属。現在(株)フジマキ・ジャパン代表取締役。東洋学園大学理事。

2013年から19年までは参議院議員を務めた。2020年11月、旭日中受賞受章。-----

参院選では「消費税減税」や「給付金」が争点の一つになっている。
日本経済はこれからどうなるのか。
モルガン銀行(現・JP モルガン・チェース銀行)元日本代表の藤巻健史さんは
「日銀が国債を買い支えた結果、政治家のばらまき癖に歯止めが利かなくなった。このツケは必ず日本国民に返ってくる。
増税は避けられず、日本円の紙くず化する恐れは大いにあり得る」という。

【写真】 物価上昇を見過ごし「遅すぎる男」と揶揄された人物

2024年9月18日、FOMC記者会見で記者の質問に答えるパウエル議長 (写真=Federalreserve/PD US Federal Reserve/Wikimedia Commons)



参院選で候補者の演説を耳を傾ける聴衆=2025年7月4日、
兵庫・JR 姫路駅前 - 写真=時事通信フォト(株式会社プレジデント社)



■バラマキをやめられない政治家が多すぎる

今回の参議院選挙では、あらゆる政党が物価対策として「減税」「給付金」を公約に掲げている。

ポピュリズム政治もここに極まり、と思わざるを得ない。

「減税」「給付金」は物価上昇で苦しい家計に対する対症療法との位置づけのようだが、その対症療法によって事態を根本的にさらに悪化させる。そればかりか、事態を悪化させる「物価上昇加速」政策なのだ。

それがわかっている政治家がごく少数だと思われることが日本の悲劇である。

もしわかっているのに、当選のためにそれを公約としているのなら最悪だ。

この環境下での「減税」「給付金」は、いわば海で遭難した人間に、のどの渇きに対処するために海水を飲ませるのと同じだ。のどの渇きを深刻にさせるだけだ。

今の日本が直面する国難は「トランプ関税問題」と「財政と金融情勢」だと思うが、政治からはこの2つの国難に対する危機感が全く感じられない。トランプ関税の決着いかんによってはスタグフレーション(=不況下のインフレ)に陥る。その後にとんでもない物価高、ハイパーインフレに襲われる恐れはかなり高いと思われる。

いまの政治家に、その危機感はあるのだろうか(いや、ない)。

■なぜ日銀は物価高を放置しているのか

まずは日本経済の現状、そして今、なぜ日本が物価上昇に悩まされているかを分析してみよう。

1980年からのGDP(国内総生産)が世界ダントツのビリ成長しかなかったせいで、日本の税収の伸びは世界最低レベルだ。GDPという全体のパイが増えなければ税収も大きく増えるはずがない。一方、歳出の増で借金総額は急速に膨らんだ。1980年に100兆円足らずだった国の借金は、現在1323兆円。とほうもない数字に膨らんでしまった。GDPに対する比率は50%から260%になった。

大雑把に言えば、GDPが伸びれば税収も同じような比率で伸びる。したがって借金のGDP比は「借金を税収で返済する難易度」であり、現在の日本は税収で借金を返すのが世界で最も難しい国になってしまったということだ。

■異次元緩和のツケ なぜ借金はこんなに膨れ上がったのだろうか。

その答えは借金額がすでに 997 兆円にまで膨れあがった 2012 年末にある。

借金の対 GDP 比は約 226%で、OECD や IMF からは「深刻な財政リスク」があると問題視されていた。

私自身も、この時点で財政破綻(=デフォルト)を覚悟した。

ところがこの時政権交代が起こり、翌年から政府・日銀が(実質的な)財政ファイナンスを始めた。日銀総裁に就任した黒田東彦氏の「異次元緩和」だ。財政ファイナンスを禁じ手とするこれまでの伝統的金融論/正統派金融論の立場からすると、私は卒倒するほど驚いた。

財政ファイナンスとは「政府の歳出を賄うために中央銀行が通貨を発行して賄う」ことで、実際に日銀が国債を大量に購入し、日本政府を買い支えた。

政治家にとっては増税を回避できるために極めて都合のいい手法だ。

それがゆえに通貨の発行が過ぎハイパーインフレを引き起こすとの理由で、世界中で禁止されている。すべての主要国の中央銀行が政府から独立し、政治家の言いなりにならないようになっているのはそれが理由だ。

政府・日銀は、その原理原則を大きく逸脱した。デフレからの脱却のためとの理由を付けた「異次元緩和」という美名に、財政ファイナンスという実態を隠したのだ。 他国も追随したが、日銀を炭鉱のカナリアとみた他国中央銀行の財政ファイナンスは日銀に比べるとかわいいものだった。

■危機の先送り続けてきた

これにより財政破綻という国難は先送りされた。

国債を買い取るにより新しい通貨を発行すれば資金繰り倒産(=財政破綻)をする恐れはなくなるからだ。

保有する金(キン)の価値が通貨発行量の上限となる金本位制を放棄したのだから日銀は通貨発行量を厳密にコントロールしなければならなかったはずだ。しかし日銀は、その義務を放棄した。

通貨を発行すればするほど通貨の価値は棄損する。

モノやサービスの需給と何ら変わらない。

通貨が無尽蔵にばらまかれれば供給過多でその価値は下落する。

つまり 1 万円札を持っても買えるものが少なくなり(=物価上昇)、為替の世界でも他国の通貨に比べて日本円は弱くなることを意味する。

伝統的金融論の教え通りのことが、今、日本に起こりつつある。

価値の棄損による物価の上昇である。その物価上昇が、参議院選挙後に急速に加速していくと思われる。

他国に比べて遅く始まった日本の物価上昇は今や先進国中、最悪だ。

それにもかかわらず政策金利は先進国最低である。

すなわち実質金利(名目金利-物価上昇率)が世界で断トツに低い。

■「物価の番人」が機能不全になっている

伝統的金融論では、物価をコントロールするのは中央銀行の最大の役割で、中央銀行のみが可能と説く。

それゆえに中央銀行は物価の番人と呼ばれている。

その物価の番人が実質金利を低く抑えれば、需要は拡大し景気は良くなり、物価上昇は加速する。

かつての日本銀行は、なにかのショックが起これば、実質金利を引き下げ、経済を下支えしてきた。

そうはいっても 1980 年からマーケットにいた私でも、今、目にしているような低い実質金利は見たことはない。リーマンショックや、ブラックマンデー直後でも実質金利は今より高かった。

実質金利からすれば、日本はとんでもない大不況に陥ってしまっているのかと思うほどだ。

これでは今後、物価が猛然と押し上げられるのは必然だ。

日経新聞は 7 月 4 日付の朝刊で「23 区単身賃貸、『高値』の花 若年層転入超過で物件不足」と題する記事を掲載した。これも今後の急激な物価急上昇を予想させる。

1985 年から 1990 年のバブル時、経済は狂乱した。それは CPI(消費者物価指数)が今よりはるかに低い 0.3~0.5%であったものの、資産価格(不動産、株、絵画)が高騰したことが原因とされる。

資産インフレはインフレ(注:資産の高騰は CPI の計算にはごく一部しか算入されない)の加速要因だが、当時は

円が毎年 30 円から 40 円ずつ急騰していたので、それがデフレ要因となり、インフレを加速させなかった。そのため CPI のみに注目していた日銀は引き締めが遅れ、その後の「失われた 30 年」を招いてしまった。

■「減税」「給付金」で生活はラクになるのか

その時と今の状況は似ている。当時と違うのは、今は強烈な円高ではなく円安方向だということ。

インフレを相殺する円高というデフレ要因が存在しないのだ。

日銀が実質金利を低く抑えていることに加えて、資産効果(資産を持っているものがお金持ちになったつもりで消費を増やす)が存在する。物価は今後、異常なスピードで上昇をすると思われる。

日本経済はいま、すぐにでも金利を引き上げ、ばらまかれたお金を回収しなければならない危険な状態にある。しかし政治家は、今回の参議院選挙で減税を競い、給付金の交付を国民に約束している。

減税や給付金の交付を行えば、ただでさえ過剰発行されている国債を新たに発行しなければならなくなる。

しかし、植田和男総裁になった日銀は、従来の買い入れ額を削っており、日銀に代わる買い手が見いだせない状況だ。長期金利上昇は今や世界全体のトレンドであるが、財政状況が世界最悪の日本で、ほぼすべての政党が更なる国債発行が必要になる公約を口に出している。

日銀以外の買い手がない以上、日銀は購入増を余儀なくされるだろう。

更なるお金のバラマキで物価上昇が予想されるだけに、マーケットは長期金利の上昇を予想する。

それが円を発行する日銀の信用棄損につながり、円の価値も棄損することになる。

円の棄損は更なる物価上昇を促す。

つまり減税や給付金交付の悪循環が、ターボエンジンを利かせて加速してしまうと予想される。

■「遅すぎる男」の教訓

もう一つの国難は「トランプ関税問題」である。現段階でどうなるかははっきりしないが、もしトランプ政権の不満が解消されず、日本経済にダメージが加われば、財政危機・日銀危機に無頓着な政治家は「経済政策」として再び大規模な財政出動をするだろう。

日銀がそのために発行された国債を買い取り、お金がさらにバラマかれることになる。

物価は一層急騰し、長期金利は暴騰する。英国のトラスショックの比ではない大きなショックが日本を襲う恐れが大いにあり得る。

もう滅茶苦茶と言わざるを得なくなる。最悪だ。

かつて米国のパウエル FRB 議長は「インフレは一時的」と断じ、政策金利を長期間 0.0%~0.25%に据え置いた。ところが、2022 年 3 月の FOMC(米国連邦公開市場委員会)で、0.25~0.5%に引き上げた。

これは CPI がすでに 8.54%に跳ね上がったあとの決断だった。

それゆえに彼は「遅すぎた男」との汚名を着せられた。その失敗のツケは大きく、2022 年 6 月には CPI が 9.0%に達した。22 年 9 月までは 8%台のインフレ、11 月までは 7%台のインフレが継続した。

24 年 6 月以降はおおむね 2%台になっている。

日銀の植田総裁も、いろいろと屁理屈を付けて、パウエル議長のように政策金利引き上げを先延ばしにして、同じ間違いを犯そうとしている。

■「政治家の暴走を食い止める警報が存在しない」

問題は、パウエル議長は分析の間違いであったのに対し、植田総裁の場合は政策金利を上げたくても上げられない点だ。私の大雑把な試算によれば米国のように政策金利を 5%にまで上げれば日銀は毎年約 25 兆円もの損の垂れ流しが生じる(いわゆる負のシニョリッジ=通貨発行損)。

日銀が購入・保有している国債(しかも発行額の半分以上)の評価損も甚大となろう。

現在すでに 28 兆円となる巨額の評価損は長期金利が 6%まで上昇すれば 140 兆円程度に膨れ上がる。

びっくり仰天の世界だろう。金利上昇、それに伴う国債の評価損の拡大は日銀の信用失墜につながる。

結果、発行する通貨である日本円の信用失墜にもなる。

政府が躍起になって物価対策をしているのに、物価の番人「日銀」が屁理屈を言い並べ、頑として金融引き締めに動こうとしないのは以上の理由だと思われる。

政治家の性として、選挙民のためにばらまきをしたいのなら、何かの警報装置が必要だった。

借金がたまれば長期金利が上昇し「政治家さんよ、そんなに歳出を増やせば長期金利が上がりますよ。それでいいのですか？」との警報だ。それが財政規律の軽視を防止する先人の知恵だった。

日本円の「紙くず化」は避けられない…

「消費税減税」でも「給付金」でも参院選の後は増税地獄が待っている

しかし政治家は、特例公債法を制定し、財政法第4条で禁止されている赤字国債をほぼ自由に発行できるようにした。更に日銀が長期国債を爆買いし、政府がどんなに国債を発行しようと長期金利が上昇させない財政ファイナンスを開始してしまった。

今、日本には政治家の暴走を食い止める警報が存在しない。これらの仕組みがあれば政治家が、「減税、給付金」を口にした途端、長期金利が急騰し、政治家はそれらの主張をすぐに引っ込めていたに違いない。

■「インフレ増税」が待っている

財政再建をなすには3つの道がある。

- ① 戦争で他国の資産を奪い取るか、② 増税をするか、③もしくは見えない形の税金であるインフレを起こすか、である。

①は論外であり、②もここまで借金がある現状では難しい。

となると③の方法しかない。これを経済学ではインフレタックス(インフレによる債務圧縮)と呼ばれている。インフレは債権者(お金を貸している人)から債務者(お金を借りている人)への実質的な富の移行である。

日本において債権者は国民であり、日本一の借金王は国である。

例えば、こう考えると分かりやすい。

1000万円を借りている個人タクシーの運転手さん(債務者)は、インフレでどうなるのか。

初乗り運賃が100万円というハイパーインフレとなれば、お客さん10人を乗せるだけで借金が完済できる。大喜びだ。

一方、汗水たらして10年間で1000万円貯めた人(債権者)はタクシーに10回乗ったらすべてを失う。

その意味で、インフレは債権者から債務者への実質的な富の移行なのだ。

国民から国への富の移行であるから税金と同じである。

結論を皮肉的に言うと、ただでさえインフレ税が発生しつつあるのに、今回の参議院選挙では、ほぼ全政党が(理解しているとは到底思えないが)「減税」「給付金」を主張し、結果としてインフレ税増税を狙っていることになる。

■このままではマーケットが黙っていない

その結果、「究極の財政再建」が達成される。

しかし国民生活には地獄である。給料や年金は毎月上がるが、パンの値段は毎時間上昇する。

もらった給料や年金では1日か2日でなくなってしまう。

それは国民にとって幸せな結論なのか？ 自分たちが選んだ政治家だからとあきらめるのか？

日本が地獄を味わうにしても、将来、日本が同じ間違いを二度と起こさないとの記録になればと思う。

今回の参議院選の意義はそんなところにしかない、と残念ながら私は思う。

最強・最大の野党であるマーケットが近々天誅を下すのは不可避であろう。

----- 藤巻 健史(ふじまき・たけし) フジマキ・ジャパン代表取締役 1950年東京生まれ。一橋大学商学部を卒業後、三井信託銀行に入行。80年に行費留学にてMBAを取得(米ノースウエスタン大学大学院・ケロッグスクール)。85年米モルガン銀行入行。当時、東京市場唯一の外銀日本人支店長に就任。2000年に同行退行後。1999年より2012年まで一橋大学経済学部で、02年より09年まで早稲田大学大学院商学研究科で非常勤講師。日本金融学会所属。現在(株)フジマキ・ジャパン代表取締役。東洋学園大学理事。2013年から19年までは参議院議員を務めた。2020年11月、旭日中受賞受章。-----

厳しい時代の中での参議院選挙 いろんなことが語られていますが、何かばらばらの「ええとこどり」。

渦中にある兵庫県の選挙では「さあ 写真を撮って動画にして SNS に挙げて…」と連呼の政治を語らぬ候補者グループも。課題山積の中で、何か違和感と戸惑いと。そんな中でひたひたと押し寄せる階層分断化と自己中心的な情報化社会の形成。自己中心の渦中に巻き込まれた息苦しさ疎外感。それから逃れる日本の道つなげてみる視点になればと…

私にはばらばらにしかよう捉えなかった事がつながって理解が深まった資料。「ふむ ふむ ふむ」と。

<1> 5月19日 「万博、能勢電…連想脈々と」と

大阪・関西万博が始まった。残念ながら、
いまだ見学できていないのだが、私の友人は初日
に出かけた。

たまたまその日は雨と風で、えらい目に遭ったと
言いながらも楽しそうだった。

入場に3時間もかかり、大屋根リングの上で
初日の目玉イベント、ブルーインパルスが飛来
するのを待ったが、悪天のため中止となり
ガッカリ！

身体が冷えたのでスペインのパビリオン横のスペ
インレストランでコース料理を食べ、赤ワイン、
白ワインと、ナント、8杯もグラスで飲んだという。

そして帰る時、会計の伝票を見て青くなったと語っていた。

赤、白、青、と、自分自身があのミyakミyakと同じ色になったと、笑っていた。

いろいろな国のパビリオン、そして展示、いずれ私も行ってみようとは思うが、
その場に居合やす体験こそ大切なのではと思う。

友人が万博に行っている頃、私は実家から大阪の仕事場へ向かう途中、能勢町の国道で車がパンクした。

高座の時間が迫る中、いつも立ち寄る喫茶店のマスターがそりゃ大変と、

能勢電鉄の駅まで自分の車で送ってくださった。初めての駅、何とか仕事には間に合ったが、駅の名前が美しい。

川西能勢口、絹延橋、滝山、鶯の森、鼓滝…。どれも新緑に映える駅名。

そこで落語「西行」を思い出した。西行は新古今集に94首ものっている歌僧だ。

元々は北面の武士だったが失恋して僧になり、

有名な「願はくは 花の下にて春死なむ その如月の望月の頃」と歌った人。

この西行法師が今の川西市の鼓ヶ滝へ歌修業でやって来る。

そして作った歌が「伝えきく 鼓ヶ瀧に来てみれば 沢辺に咲きたんぽぽの花」。

すると老夫婦と娘がやって来て、その歌に手を入れたいと言う。生意気なことをと思いつつ「どう訂正するのか」と聞くと「伝えきく」を「音に聞く」とした方が鼓の縁語となる、そして「沢辺」を「かわ辺」にしたら鼓の皮に通じて良いと言う。今度は娘が「来てみれば」を「打ちみれば」にすればより鼓にちなむではないかと。

結局「音に聞く 鼓ヶ瀧をうち見れば かわ辺に咲きたんぽぽの花」となる。西行は恐れ入ったと礼を言うと、3人の姿が消えた。さては和歌三神が私の慢心をいましめた…と、いい噺だ。

ちなみにタンポポは小鼓の稽古（けいこ）で「タタポポ、タツポン」と洒落（しゃれ）ているのだ。

アメリカ大統領、関税ばかりでは誰も利をトランプププ…だ。

日本の自動車産業がパンクしたら困るよー。（かつら・ぶんちん=落語家）



文珍さんが取り上げた話題はスタートしたみやくみやく人気の大阪万博。 タイトルには「万博、能勢電・・・連想脈々と」とある。よく知る能勢電鉄と万博とどうつながるのだろうか???

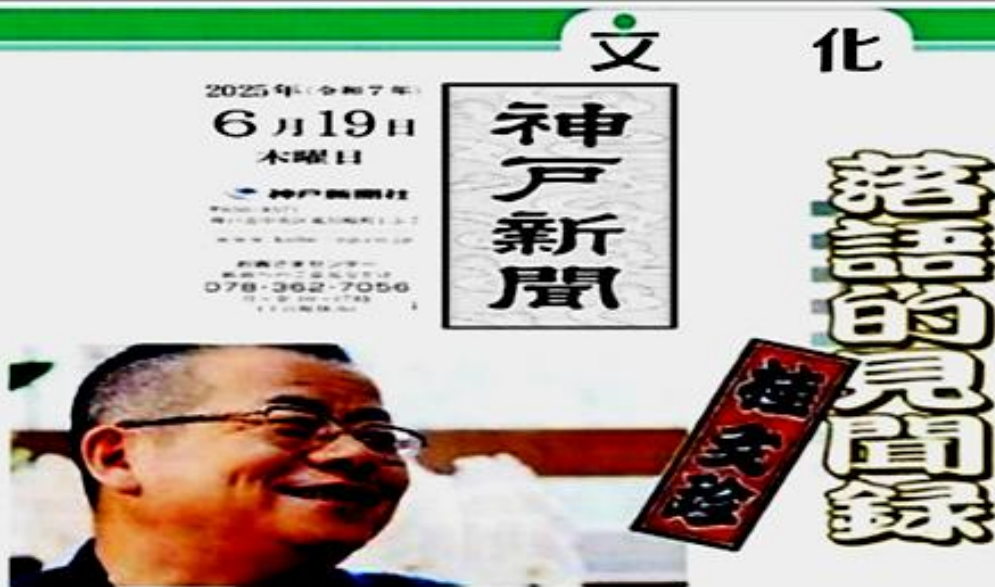
活字には「西行」の文字も見える。「西行」という落語も全く知らず。さっそく読んで納得。

私にも遠い記憶 しっかりと見なかった千里万博の思い出がある。もっとちゃんと見とけばよかったと今も思う。

でも 年老いての今回はもういいと。

勢電の駅名はどれもよく知る名前 特に鼓ヶ滝駅はかつて集まりでよく通った川西の生涯文化センターの最寄り駅。また能勢電界限には今もたくさん仲間がいる。

懐かしい思い ちょっと後ろめたい私の万博への思いを晴れ晴れと。



ウソを重ねて失せ者に…

米の値段が高い。そこで小泉進次郎農相は古米のみならず、古古古米まで備蓄米を放出したら少し値段が下がったとか。当たり前だ。進次郎の米ならシンマイになるのかい？このままだと古代米まで出すのかい？と思うような日々だ。

日本の農業政策の後手後手ぶり、長い間の減反政策、農業従事者の高齢化、米をつくるのに高い肥料代、苗代、多額の耕作機械代。公務員をしていた私の友人は、年金を田んぼに入れて赤字だ、とボヤクことしきり。その友人が唯一、私に言ってくれたギャグは「私は今まで一度も米を買ったことがない」。まるで更迭された大臣のよう。当たり前や、君とこ米農家やないか？と一応、ツッコミを入れておいた。

米の値段のみならず、日本の米の値段まで管理するのか？。よく読むと、USスチールの日本製鉄による買収交渉にて米国が黄金株なるもので買収後もしっかり管理をするといったニュアンスの記事の見出しだった。

見出しのみならず、記事の自身をしっかりと読まねばの時代、情報過多の時代、偽情報に惑わされないよう、まして、近々、選挙の季節、SNSなんぞでそれが本当でそれが偽情報なのか、しっかりと見ないとエライことになる。

落語「御神酒徳利」ではある日、京の公家さんから頂いた一対の銀の徳利の片方が行方不明に。実は出入りの職人熊五郎が過って水瓶の中に落としたが、酔っ払いで、そのことを忘れていた。家に戻り、旦那が徳利が無いと探していたことを女房に語るうちに思い

出し、早く謝った方がいいと旦那のところへ戻った。

素直に謝ろうと思ったのに、実は古い徳利のある場所がわかるとウソをつく。側にあった算盤で占うのだとバチバチ。これは西の方角、なぜ？二十四と出た、水瓶の中を三十六、見ろ！と出た。探すと、水瓶の中に徳利があった。

熊五郎は古い名人ということになり、次々とその場限りのウソをついて、遠く尾道まで。その宿では二十両の金財布が失せものになったと大騒動。盗んだ宿の女中が病気の親のために取ったと熊五郎に自白、それをさも占いで見つけたようにウソをつく。ウソにウソを重ねて最後は自分が失せ者になるという、面白い斬だ。

ウソ、偽情報に御用心御用心。
(かつら・ぶんちゃん「落語家」)

次回7月17日

梅雨というのに猛烈な暑さ 街の話題は米の値段の高騰。 農林大臣が小泉さんになって、政府の備蓄米放出古米から古古古米まで放出、安いコメを街に出して、米価を下げる算段が進む。

それに「トランプ関税」の激震 日本製鉄のUS スチール買収に「黄金株登場」等々と新聞見出しが躍る。知っておかねば暮らしが成り立たぬが、何かなんやらわからぬ中、偽情報がそれに輪をかける情報過多の時代。文珍さんが取り上げた落語は 有名な「お神酒徳利」。ウソにウソを重ねて最後は自分が失せモノになる。自分にもあるあるその場しのぎ・苦し紛れのウソ。でも 今の世の中 偽情報の氾濫 インフルエンサーとかいって嘘を嘘でおおる過大広告ビジネスも横行。 御用心ください。

From Kobe Mutsu Nakanishi